

令和 6 年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館評価様式（令和 6 年度事業評価用）	2
1 - 1 展覧会（特別展・企画展）	3
1 - 2 展覧会（常設展）	8
1 - 3 展覧会（その他）	11
2 作品・資料の収集	12
3 作品・資料の保存・管理・貸出	12
4 教育普及	15
5 調査・研究	19
6 交流事業	20
7 安全と快適性	21
8 入場者数と財源の確保	24

和歌山県立近代美術館評価様式（令和 6 年度事業評価用）

美術館長による評価	近代美術を対象とする国公立美術館として国内で 5 番目に 1970 年にオープンして半世紀を数える節目を迎えて 4 年、今年度（2024 年度）は、当館が現在の地に日本の 20 世紀を代表する美術館建築の作例として竣工・オープンして 30 周年を迎えた。 従前からの継続的調査研究の成果として、まとまった規模の一括受贈から貴重な作品資料の発見・収蔵の集積による地道なコレクション形成、収蔵品を活用した独自の切り口による常設展・企画展の開催、地域連携、博学連携による企画展を実現し、いずれの事業も質及び観客動員数ともにほぼ設定目標を上回る結果を得た。 館の基幹事業に加えて、県の政策の一環で、姉妹ミュージアムとして全米日系人博物館と提携。加えて、文化庁補助事業「移民史継承のモデル構築を目指した広域MLA連携事業」の中核館として多様な事業を手掛けた。 継続的課題で懸案の建物の長寿命化対策や機能回復については、展示室の空調設備の修繕を実施した。今後、課題の更なる抽出と優先課題について速やかに対処することが急務である。 未曾有のパンデミック・コロナ禍を克服し、世界的にアフター・コロナ時代が本格的にスタートした 2024 年度は、地域社会から国際社会まで多様なスケールで激変する時代の幕が開けた年である。当館の設置目的に照らし、ポストコロナ社会における文化芸術領域の新たな動きを捉えつつ、拡張する美術、そして美術館の社会的使命の再認識の上に、ソフト面とハード面の両面から短・中・長期ヴィジョンの計画立案、推進が求められている。
評価部会による評価	厳しい予算の中、多くの業務に取り組んでいる。職員の負担が過重にならないよう配慮しながらも、助成金の獲得など、今後も事業を継続できるようにする必要がある。美術館に期待されていることは社会的に増えており、教育や広報のためのスタッフ確保についても検討すべき時勢である。また展覧会の図録が刊行されていない状況は続いており、美術館運営の基本的な考え方を再確認されたい。さらに、施設の傷みが目立つので、来館者の安全確保とサービス、作品の保存と更に魅力的な展覧会開催のために、長期的な施設維持計画を持って取り組まれることを大いに期待する。

1-1 展覧会（特別展・企画展）

美術館長による所見	コレクションの厚みを活かし長年の美術館活動の蓄積を示す充実した企画展「土が開いた現代 革新するやきもの」、特別展「月映 つきてるつちにつどいたるもの」を開催。いずれも、成果物として展覧会カタログの制作が残せていないこと、また広報戦略について再考し、今後具体策を検討する必要がある。 田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館との合同展覧会の取り組みは3年目となり、「なつやすみの美術館 14 河野愛『こどもの、と』」では若手作家を紹介し、小中高校生に同時代の作家の活動を示すことができた点で意義深い。また「仙境 南画の聖地、ここにあり」では南画に描かれた風景を題材に、3館でそれぞれのテーマに取り組み、新たな合同展覧会の形を実現させた。本件は、美術館から遠い地方のこどもたちが美術に触れる機会を提供する県主導の3か年施策であり、本年度が最終年となる。今後も、郷土の作家や風景、多様なテーマを取り上げ、広域連携の在り方について広い視野をもって検討し、美術文化の醸成に資する事業を発展継続していくことが望ましい。
評価部会による所見	「土が開いた現代 革新するやきもの」展はコレクションを中心とした展覧会だったが、充実しており、図録が刊行できていないことが残念である。また関係者ですら展覧会が開催されていることを知らないなど、周知・広報が行き届いていない問題もあった。 「月映 つきてるつちにつどいたるもの」も、この美術館でしかできない充実した展覧会であった。他館との巡回展を考えられる内容であるにもかかわらず、単独開催で図録の刊行もできておらず、勿体ない結果となった。 「紀南地方の美術館の合同展覧会」事業によって実施された「なつやすみの美術館 14 河野愛『こどもの、と』」と「世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』登録20周年記念 仙境 南画の聖地、ここにあり」は、和歌山、田辺、なかへちの3館の連携・分担がうまく考えられ、展覧会を多くの人に知ってもらえるユニークな取り組みとして評価できる。「仙境」展で一般財団法人地域創造の助成がよいタイミングで得られ、江戸から近代にいたる絵画史を辿る興味深い内容だった。しかしながら、実際に和歌山、田辺、なかへち3館での展覧会すべてを見た人は少数であろう。その点は今後の課題と言える。

① 企画展 土が開いた現代 革新するやきもの

会期：令和 6（2024）年 4 月 27 日（土）－6 月 30 日（日）65 日間・うち休館 9 日

会場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和 6 年度目標	現代日本の美術に大きな一角を占める、20 世紀後半の京都を中心に試みられた陶による多彩な表現を当館コレクションから紹介する。
成果・課題	戦後の京都を中心に展開した現代陶芸を紹介し、当館コレクションの充実ぶりを示すことができた。しかし 1980 年代で収蔵が途切れており、1990 年代以降の作家や作品の紹介・収蔵が今後の課題である。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和 6 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
成果・課題	ポスター、チラシを制作、配布した。図版入りの目録を工夫した。テキストのみの出品目録をホームページで公開した。美術館ニュースに論考を発表した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和 6 年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
成果・課題	フロアレクチャーを 5 回（参加 69 人）開催した。ほかに「こども美術館部」2 回（参加 20 人）、京都市立芸術大学・大阪芸術大学の合同鑑賞会に協力し 35 名が参加した。

D. 安全確保・快適性

令和 6 年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	特に問題はなかった。

E. 入館者数

令和 6 年度目標	6,000 人を目標とする。
成果・課題	5,031 人。うち有料 1,794 人、無料 3,237 人（うち小中高生 241 人、65 歳以上 1,015 人、団体 324 人、その他 1,420 人）、1 日平均 89.8 人、有料率は 35.7%だった。

② 企画展 なつやすみの美術館 14 河野愛「こどもの、と」

会期：令和 6（2024）年 7 月 13 日（土）－9 月 23 日（月・休）73 日間・うち休館 10 日

会場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和 6 年度目標	和歌山県ゆかりの若手作家、河野愛を迎えて近年のシリーズ「こどもの」と当館コレクションの作品をあわせて展示し、夏期休暇中の小中高校生を中心に美術の楽しみ方を伝える。
成果・課題	参加者を募るプロジェクト型の新作に協力し、作家の多様な展示プランに対応した。また現代作家の招聘とコレクション展示の新たな関係性を示した。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和 6 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、パンフレットを制作する。
成果・課題	ポスター、チラシ、出品目録を制作、配布した。ワークシートを制作し会場配布するほかホームページ上で公開した。美術館ニュースに作家によるエッセイ、作品についての論考を発表した。

C. 関連事業（教育普及・地域との連携）

令和 6 年度目標	フロアレクチャー、講演会等を開催する。
成果・課題	アーティストトーク 2 回（参加 59 人）、ギャラリートーク 2 回（参加 58 人）、作者と英文学者による対談（参加 55 人）を開催した。ほかに「こども美術館部」2 回（参加 19 人）、「たまごせんせいとわくわくアートツアー」15 回（大学生 17 人、参加 85 人）を実施した。

D. 安全確保・快適性

令和 6 年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	特に問題はなかった。

E. 入館者数

令和 6 年度目標	8,000 人を目標とする。
成果・課題	9,789 人。有料 3,296 人、無料 6,493 人（うち小中高生 2,771 人、65 歳以上 994 人、団体 461 人、その他 1,839 人）。1 日平均 155.4 人、有料率 33.7%だった。

③ 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録 20 周年記念特別展

仙境 南画の聖地、ここにあり

会期：令和 6（2024）年 10 月 5 日（土）－11 月 24 日（日）51 日間・うち休館 7 日

会場：展示室 A（1 階）、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館

主催：和歌山県立近代美術館、田辺市立美術館

助成：一般財団法人 地域創造

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和 6 年度目標	紀伊山地の霊場と参詣道の世界遺産登録 20 周年を記念し、近代南画の展開と和歌山の風景表現に焦点をあてる展覧会を、和歌山県立近代美術館と田辺市立美術館と共同で同時開催する。
成果・課題	地域性に着目しつつ、当館、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館の 3 会場で、関西の近代南画の歴史的展開、和歌山ゆかりの南画家、和歌山の風景を描いた南画を紹介した。瀬峡を描いた歴史的重要な作品が他館での展覧会と重なったために出品が叶わず、早い時期からの準備と情報収集が今後の課題となった。また広報は県観光連盟と連携した展開ができたが、今後とも連携強化していく。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和 6 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、図録を制作する。
成果・課題	3 館共通のポスター、チラシ、図録を制作した。出品目録を会場で配布した。ポスター、チラシ、出品目録はホームページでも公開した。美術館ニュースに展覧会後記を掲載、ホームページでも公開した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和 6 年度目標	フロアレクチャー、講演会、ワークショップ等を開催する。
成果・課題	フロアレクチャー 3 回（参加 76 人）、スライドレクチャー 1 回（参加 29 人）、講師 2 名によるトークイベント（参加 55 人）、ワークショップ 1 回（参加 17 人）、「こども美術館部」（参加 16 人）を開催した。

D. 安全確保・快適性

令和 6 年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	特に問題はなかった。

E. 入館者数

令和 6 年度目標	6,000 人を目標とする。
成果・課題	6,150 人。有料 1,608 人、無料 4,542 人（うち小中高生 473 人、65 歳以上 1,095 人、団体 423 人、その他 2,343 人）。1 日平均 139.8 人、有料率 26.1%だった。

④ 企画展 月映 つきてるつちに つどいたるもの

会期：令和 6（2024）年 10 月 5 日（土）－11 月 24 日（日）51 日間・うち休館 7 日

会場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和 6 年度目標	田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎によって木版画と詩の作品集『月映（つくはえ）』が 1914 年 9 月に刊行されてから 110 年となるのを記念して一堂に展示する。
成果・課題	一組だけが現存する稀少な私輯『月映』を中心に、その成立過程を辿った。当館が長年かけて収集してきた作品を新発見の作品と共に一堂に発表する貴重な機会であったが、単館開催かつ常設展と同規模の「特別展」となった点は課題を残した。新たに発見された作品は今後の収蔵を目指したい。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和 6 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
成果・課題	ポスター、出品目録を制作した。出品目録はホームページでも公開した。美術館ニュースで論考を発表し、ホームページで公開した。

C. 関連事業（教育普及・地域との連携）

令和 6 年度目標	フロアレクチャー、講演会等を開催する。
成果・課題	講演会 1 回（参加 24 人）を開催した。大雨により交通機関が大幅に遅れ参加者は少なかったが、東京、北陸、関西など他府県からの来館が多かった。

D. 安全確保・快適性

令和 6 年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	特に問題はなかった。

E. 入館者数

令和 6 年度目標	6,000 人を目標とする。
成果・課題	4,885 人。有料 1,543 人、無料 3,342 人（うち小中高生 423 人、65 歳以上 699 人、団体 423 人、その他 1,647 人）。1 日平均 111 人、有料率 31.6%だった。

1-2 展覧会（常設展）

美術館長による所見	常設展として、小品の密度と存在感を多角的に提示する「小さくていいもの、あり㊦」、アフターコロナの社会状況と接続させ「旅」と「美術」の概念の深化を喚起した「旅する美術」、特別展の「仙境」「月映」と関連させた「コレクション名品選」を実施。各担当学芸員が最新の作品研究から見いだされる作品解釈を洗練された展示手法によって表現することに注力。タイトルの工夫、同時開催の特別展との有機的な関係もよく練り上げ、鑑賞者に多彩な鑑賞体験を促すアプローチを試み、収蔵品の再解釈、多義性の生成につながる企画展開を実現している。
評価部会による所見	コレクションの充実ぶりがあらためて感じられ、多彩なテーマで工夫が凝らされたコレクション展を継続できているのはよい流れである。作品を見る立場からの企画と、企画側の創意工夫のバランスを取り、多様な側面を見せ続けてほしい。

① コレクション展 2024－春 特集：小さくていいもの、あり㊦

会期：令和6（2024）年4月27日（土）－6月23日（日）58日間・うち休館8日

会場：展示室A・B（1階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和6年度目標	和歌山県ゆかりの作家を軸とした近現代美術のながれをとともに、特集では小品だからこそできる冒険など、小さな作品のもつ大きな力を紹介する。
成果・課題	小品の魅力をあらためて見直す機会となった。「いつものいいもの、あり㊦（ます）」「大きくていいもの、あり㊦（ます）」「あたらしくていいもの、あり㊦（ます）」といったコーナーも設け、単純な視点から当館コレクションを親しみやすく紹介した。

B. 出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和6年度目標	出品目録を制作する。
成果・課題	出品目録を制作した。会場配布のほかホームページで公開した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和6年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
成果・課題	開催しなかった。

D. 安全確保・快適性

令和6年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	特に問題はなかった。

E. 入館者数

令和 6 年度目標	3,000 人を目標とする。
成果・課題	4,333 人。有料 1,728 人、無料 2,605 人（うち小中高生 214 人、65 歳以上 809 人、団体 290 人、その他 1,095 人）、1 日平均 86.7 人、有料率 39.9%だった。

② コレクション展 2024－夏 特集：旅する美術

会期：令和 6（2024）年 7 月 2 日（火）－9 月 23 日（月・休）84 日間・うち休館 11 日

会場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和 6 年度目標	和歌山県ゆかりの作家を軸とした近現代美術のながれとともに、旅をテーマにした作品を特集で紹介する。
成果・課題	特集「旅する美術」では近代から現代までの美術の流れもたどれるように章を立てつつ、県外からの旅行客が多い季節であるため、和歌山各地を作品の上で巡れるよう構成に組み込んだ。各章解説とともに、作品には解説も工夫した。

B. 出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和 6 年度目標	出品目録を制作する。
成果・課題	出品目録を制作、会場配布したほか、ホームページで公開した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和 6 年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
成果・課題	フロアレクチャー 3 回（参加 44 人）、「こども美術館部」（参加 20 人）を開催した。

D. 安全確保・快適性

令和 6 年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	特に問題はなかった。

E. 入館者数

令和 6 年度目標	5,000 人を目標とする。
成果・課題	8,222 人。有料 3,339 人、無料 4,883 人（うち小中校生 1,329 人、65 歳以上 976 人、団体 475 人、その他 1,749 人）。1 日平均 112.6 人、有料率 40.6%

③ コレクション名品選

会期：令和 6（2024）年 10 月 5 日（土）－12 月 22 日（日）79 日間・うち休館 11 日

会場：展示室 B（1 階）

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和 6 年度目標	和歌山県ゆかりの作家を軸とするとともに関連した作品を紹介する。
成果・課題	1 点ずつをじっくり鑑賞できる展示を工夫した。同時開催の「仙境」「月映」と関連のある作品を紹介した。また県展の会期と重なるため無料公開としている。

B. 出品目録等の制作（成果の記録・普及）

令和 6 年度目標	出品目録を制作する。
成果・課題	出品目録、セルフガイドを会場配布した。出品目録はホームページで公開した。

C. 関連事業（教育・地域・外部機関等との連携）

令和 6 年度目標	フロアレクチャー等を開催する。
成果・課題	「こども美術館部」（参加 16 人）を開催した。

D. 安全確保・快適性

令和 6 年度目標	出品作品・資料、来館者の安全確保を行い、美術館として快適な施設を維持する。
成果・課題	特に問題はなかった。

E. 入館者数

令和 6 年度目標	6000 人を目標とする。
成果・課題	6,686 人（無料）、1 日平均 98.3 人。

1-3 展覧会（その他）

① 第78回和歌山県美術展覧会（県展）／第10回和歌山県ジュニア美術展覧会

県展会期：令和6（2024）年12月11日（水）－12月15日（日）

県展会場：展示室A（1階）・C（2階）

ジュニア県展会期：令和6（2024）年12月18日（水）－12月22日（日）

ジュニア県展会場：展示室A（1階）

主 催：和歌山県

共 催：和歌山県教育委員会、和歌山県立近代美術館、和歌山県美術家協会、毎日新聞社
和歌山支局、一般財団法人 和歌山県文化振興財団、橋本市、新宮市、上富田町

協 賛：公益財団法人 大桑教育文化振興財団

A. 展覧会の内容（趣旨・構成・出品作品・工夫・調査研究成果の反映）

令和6年度目標	県文化学術課が実施する県展、ジュニア県展に美術館として協力、開催する。
成果・課題	県展の応募数は減少しており作風や傾向に変化がない。美術館の収蔵庫狭隘化と共に、展示室の一部を閉鎖せざるを得なくなっており、県展のスペースを確保するために作品を収納する作業が困難になりつつある。

B. 安全確保・快適性

令和6年度目標	出品作品、来館者の安全と快適性を守る。
成果・課題	特に問題はなかった。

C. 入館者数

令和6年度目標	6000人を目標とする。
成果・課題	5,702人。県展3,296人、1日平均659人。ジュニア県展2,406人、1日平均481.2人。

2 作品・資料の収集

美術館長による 所見	当館の収集方針に基づく、継続的な調査活動において厳選した作品を収蔵。購入対象としては、版画史上重要な恩地孝四郎や戸張孤雁の代表作や南野馨による現代陶芸作品。受贈対象として、速水御舟や村上華岳、藤島武二、日高昌克、佐藤春夫旧蔵品など 22 件 187 点を収蔵。まとまった規模での優品を一斉寄贈いただけたことをはじめ、一貫して継続してきた真摯な調査研究活動に対する信用の集積による成果である。 この連続性を維持しながら今後は、ジャンルを横断し多様化する同時代美術の動向を積極的に捉え、コレクション形成に反映させ、現代社会の動向とつながり、新たな価値を創出する美術館機能をより十全に開花させていくことが課題である。
評価部会による 所見	限られた予算の中ではあるが、着実に収蔵を進めている。寄贈品の作質と点数は、美術館活動と学芸員の姿勢に対する信頼の現れと言えよう。今後、目録化作業と来歴調査も含めた位置づけは、美術館における一番大事な仕事として取り組むことが大切である。作品購入も情報が途絶えないよう、継続が大事である。

① 作品・資料の収集

A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

令和 6 年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
成果・課題	購入・寄贈候補作品の調査と作品選定委員会を経て適切に収集した。

B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

令和 6 年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
成果・課題	購入 5 作家 5 点、寄贈 22 件 187 点で、日頃の活動が成果として発揮された内容となっている。限りある収蔵スペースで、保管中の事故や紛失が起きないよう、管理業務に一層の注力が必要である。

② 図書資料の収集・公開

令和 6 年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
成果・課題	逐次刊行物 49 冊、単行本 32 冊を購入した。近年刊行された基本文献の収集が課題である。

3 作品・資料の保存・管理・貸出

美術館長による 所見	作品保存対策、修復は美術館活動を支える重要な基幹業務である。現状で可能な作品に対するメンテナンスは人的管理において最善を尽くしている。ただし施設環境面においては、収蔵スペースの不足により作品・資料保全について十分な環境条件を備えられていないことが積年の懸案である。増築、既存スペースの改修など具体的且つ計画的対策を講じることが急務である。 「和歌山県立博物館施設デジタル化計画事業」も3か年計画の3年目として進められたが、今後の継続とさらなる活用が重要である。
評価部会による 所見	充実したコレクションを守るため、修復は今後ますます力を注ぐべき事業になる。また、作者による組立が必要な立体作品など、再現できる体勢を整える必要があるため、展示方法の記録を残す取り組みも重要となる。

① 作品・資料の管理

令和6年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
成果・課題	展示、貸出の機会にあらためて状態を確認し、マットや保存用紙、額の改良・交換を中心に処置を進めた。

② 作品・資料の保存環境の整備

令和6年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
成果・課題	温湿度管理、IPMによる観察、清掃除菌作業、燻蒸により安全な環境を整備した。また展示室の空調機修繕が実施された。気候変動による気温上昇、急で激しい降雨など、対処すべき事案が増えており、職員全体の意識を高めることが課題である。さらに収蔵スペースが不足し、展示室の一部（展示室B 300㎡：4月～令和7年2月、展示室C128㎡：令和7年2月～）を閉鎖しており、対策が急務となっている。

③ 作品・資料の保存修復

令和6年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
成果・課題	石垣栄太郎の壁画画稿（4点）の修復は、2点の裏打ちに進んだ。続く1点の裏打ちと、支持体の制作が今後の課題である。

④ 作品・資料のデータ管理・公開

令和6年度目標	新政策「和歌山県立博物館施設デジタル化計画事業」（和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘の3館がそれぞれ、収蔵品・資料データベースを各館のウェブサイトで公開するとともに、3館の資料を横断的に検索できるシステムと各館の活動を紹介するポータルサイトを設置）R4－6年度の3か年継続事業の3年目。最新の情報を公開できるようにし、バイリンガル対応を行う。
---------	---

	全作品の約 12,000 点の文字データを公開し、画像等は段階的に追加して、3 か年で約 7,500 点の画像公開を目標とする。国立国会図書館が主導するジャパンサーチ等との連携を行うとともに、県内市町村立館や私立館にも参加を促し、和歌山県の文化財情報を集約的に紹介できるサイトとして、観光行政にも効率的に接続できるようにする。
成果・課題	令和 6 年度に追加データ 1,200 点分および画像 1,500 点を公開したことにより、公開はデータ 13200 点、画像 6000 点となった。さらにサイトをバイリンガル対応とし、英語作品情報の追加を随時行っている。所蔵作品画像の貸出について、著作権の保護期間が過ぎた作品は自由な利用を促している。一方で、出版対応や高解像度画像の貸し出しは別途 19 件行った。新たなコンテンツとして「コレクションスタジオ」を追加し、利用者が著作権フリー画像を使ってハガキやワークシート、携帯の待受画面等を作成できる機能を付けた。

⑤ 作品資料の貸出

令和 6 年度目標	国内外の美術館と協力して作品・資料を貸出し、所蔵品の公開をする。
成果・課題	11 件 98 点の貸出に対応した。

4 教育普及

美術館長による 所見	県内広域からの生徒たちの来館は当館の課題であったが、県の施策によって、県内小学生・支援学校生がバスをチャーターしての来館が可能となったことを受けて、より学校連携が強化され、児童・生徒たちの美術館体験の機会を増やすことができた。また本年も和歌山美術館教育研究会の開催や、地元大学の美術館部への協力、小学生を対象にした鑑賞会「こども美術館部」など、数多くのプログラムを実施した。かつての参加者が、新たに教師やスタッフとして事業に参加するなどよい循環があり、継続的且つ発展的展開を目指したい。 今後、人口減少と多文化共生社会へと急速に進む過程のなかにあつて、美術館と学校、福祉施設など地域社会との創造的な連携事業の創出・促進の社会的要請は大きくなる一方である。県の総合的な方針の下で、時代のニーズに応える社会教育施設としての美術館の役割を再検証の上、新たな枠組みでの事業強化が図られるべきである。
評価部会による 所見	学校からバスを走らせる取り組みは、これまでにない新たなものとして注目される。遠方からの利用が難しいという課題は残るが、教師たちへの働きかけが今後さらに大事になるであろう。学校との連携をはじめ美術館の仕事は増えており、教育や広報の専門職員の必要性も検討すべきではないか。

(1) 学校教育関連

① 学校教育団体からの来館の受け入れ

令和 6 年度目標	学校教育団体からの鑑賞を積極的に受け入れる。
成果・課題	140 件 2,579 名の団体来館を受け入れ、うち 130 件 2,256 人に解説などを行った。今年度より始まった県の施策「近代美術館・博物館の活用促進事業」により、小学校 27 校 1,017 人（引率含）、特別支援学校 5 校 101 人（引率含）を受け入れたことで、対応した全体の件数は昨年度より 38 件増加している。各学校とは事前打合せを行い、校種ごとに対応方法を調整した。

② 学校・教員等と連携した事業（展覧会関連事業以外）

令和 6 年度目標	学校教員との協力体制の強化を目的として各種研修会に積極的に参画する。学校教員を中心とする和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート制作などに取り組む。
成果・課題	美術館教育研究会を 8 回開催、毎回 7～23 人の学校教員が出席し、「なつやすみの美術館」でのワークシート制作に取り組み、夏休み中の生徒たちの来館につないだ。和歌山市中学校教科等研究会、和歌山

	市美育協会鑑賞指導研修会、和歌山県歴史教育者協議会、和歌山大学学芸員資格に関する授業の受け入れや協力を行った。
--	---

③ 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

令和 6 年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
成果・課題	博物館実習で 2 大学 2 人、職場体験学習で中学校 8 校 34 人、インターンシップで高校 4 校、支援学校 1 校、計 9 人を受け入れた。

(2) 生涯学習関連

① 講演会・解説会・体験的プログラム等の実施（展覧会関連事業以外）

令和 6 年度目標	展覧会に関連しない行事も可能な限り積極的に開催する。
成果・課題	美術館・博物館合同バックヤードツアーを実施した（参加 19 人）。工事休館中に「こども美術館部」を隣接する県立博物館で開催した（参加 20 人）。きのくに県民カレッジ（県立図書館）、エキスパート職員派遣（教育総務局総務課）、障害者のための生涯学習支援者派遣事業講座（生涯学習課）に登録した。

② ボランティア活動の受け入れ

令和 6 年度目標	図書ボランティア等の活動を受け入れる。
成果・課題	校正ボランティア 1 人、和歌山大学ミュージアムボランティア 3 人を受け入れた。

③ 友の会等の支援組織との連携

令和 6 年度目標	友の会、NPO 等の芸術文化支援組織の活動に相互協力する。
成果・課題	友の会によりオリジナル版画のプレゼント、バックヤードツアー等が実施された。また中銀カプセル関連イベントやオリジナルグッズについて協力体制を作り、カプセル内部公開では友の会会員に優先的に参加予約を受付けた。NPO 和歌山文化芸術支援協会によるアーティスト・イン・レジデンス・プログラムに際し、招聘作家とのトークに協力した。

(3) 地域との連携

① 自主事業

令和 6 年度目標	地域との交流プログラムを工夫する。
成果・課題	第 1 日曜日無料、紀陽文化財団の日（第 4 土曜日）大学生無料、関西文化の日 2 日間無料、ふるさと誕生日（11 月 22 日）無料とした。ス

	タンプラリーや「わかやままちなかミュージアムマップ」の配布を行った。
--	------------------------------------

③ 協力事業

令和 6 年度目標	県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う他、関西文化の日等のイベントへの事業協力を行う。
成果・課題	県警音楽隊たそがれコンサート、代官山蔦屋書店「中銀カプセル A908 フェア」、県国際課によるインドのダンスと伝統工芸士による実演に協力した。

(4) 印刷物の刊行

① 機関紙『和歌山県立近代美術館ニュース (NEWS) 』

令和 6 年度目標	機関誌「NEWS」を年 4 回刊行、関係機関、友の会会員等に送付する。
成果・課題	年 4 回 2,500 部を刊行、配布した。

② 展覧会カレンダー

令和 6 年度目標	年間の展覧会カレンダーを製作し、情報提供・広報活動を行う。
成果・課題	令和 6 年度のカレンダー 3 万部を配布した。また令和 7 年度のカレンダー 2 万部を製作した。

③ 年報

令和 6 年度目標	令和 5 年度の活動をまとめた年報を刊行する。
成果・課題	『和歌山県立近代美術館年報 2023 (令和 5) 年度』を 250 部発行した。

(5) メディア等への情報発信

① プレスリリース、取材協力

令和 6 年度目標	メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
成果・課題	展覧会ごとにプレスリリースを作成し、県内広報機関を始め、美術関連メディアを中心に情報提供を行った。

② ホームページでの情報発信 (更新回数・工夫)

令和 6 年度目標	ホームページ上で美術館情報を公開する。
成果・課題	展覧会や教育普及事業をはじめとする予定、内容紹介をホームページに掲載した。

③ メールマガジンによる情報発信 (回数・工夫)

令和 6 年度目標	10 回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等興味を引く工夫をする。
成果・課題	12 回発行した。登録読者数 663 人。

④ SNS による情報発信（回数・工夫）

令和 6 年度目標	SNS を利用した情報発信を適宜行う。
成果・課題	Facebook、Instagram、X（旧 Twitter）、Google ビジネスプロフィール等を通じて情報提供を実施した。

⑤ 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

令和 6 年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
成果・課題	展覧会や作品に関する問い合わせなどに適宜対応し、必要と判断した際には直接赴いて作品調査や保存、寄贈の相談に応じた。

5 調査・研究

美術館長による 所見	美術館事業を担う学芸員による調査研究は、館の存立の根幹を成す活動である。具体的には、企画展「土が開いた現代 革新するやきもの」「なつやすみの美術館 14」、特別展「仙境」「月映」、コレクション展、「仙境」図録のほか、美術館ニュース等官報及び各種媒体に公開された論考によって示される。また館内外での講演会等への参加は自己研鑽・学術振興・教育普及等、多角的見地から極めて有意義である。 なお、各事業担当者の調査研究活動の成果は収集・保存修復・企画展示・教育普及の館活動の総体において成立するものであり、なかには予算不足から公開に至らぬ知見や、データ化や開示が難しい教育普及、保存修復・環境維持管理の類の調査成果が膨大に存在している。その重要性の再認識と対応は今後の課題である。
評価部会による 所見	豊富な寄贈作品・資料の目録化をはじめとして、展覧会、成果物刊行までが一連の流れとなり、深まっていくように望む。

① 調査・研究テーマ

令和 6 年度目標	当館の活動方針を大切にし、長期的な展望を持って調査研究を進める。
成果・課題	各自が取り組む課題の研究を進めた。

② 研究成果の公表

令和 6 年度目標	研究成果を外部に向けて公表する。
成果・課題	展覧会に研究成果を反映させると共に、執筆、講演などの活動を通じてその成果を広く知らせた。

6 交流事業

美術館長による 所見	各種関連機関会議への参加・出席を積極的に行っている。 和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議は南海トラフ地震に備えることの重要性を見直す機会となっている。 令和5（2023）年に開催した「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」展での協力関係を経て、今年度、全米日系人博物館と初の姉妹ミュージアム提携を締結。開館当初から和歌山県ゆかりの渡米画家を収集の軸に据え、研究を重ねてきた当館と、日系アメリカ人の歴史を全米規模で収集・公開する同館とが、今後、本パートナーシップにより、調査研究、展覧会、教育普及事業などにおいてさらに協力関係を深め、連携を強化していくことが期待される。
評価部会による 所見	美術館連絡協議会は組織自体が変化しており、今後の交流事業の在り方には留意が必要な面がある。

① 日本博物館協会

令和6年度目標	総会、支部会等にできるだけ出席する。
成果・課題	青木加苗が博物館総合調査委員を務めた。

② 全国美術館会議

令和6年度目標	総会や研究部会にできるだけ出席する。
成果・課題	総会、研究部会、学芸員研修会に職員を派遣した。教育普及研究部会に受け入れ館として協力し「なつやすみの美術館」など当館における教育普及活動の取り組みを紹介した。

③ 美術館連絡協議会

令和6年度目標	総会や研究部会にできるだけ出席する。
成果・課題	令和6年度総会に井上芳子が出席した。

④ 都道府県立美術館副館長等事務責任者会議

令和6年度目標	総会や研究部会にできるだけ出席する。
成果・課題	令和6年度会議に東松生が出席した。

⑤ 和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議

令和6年度目標	総会や研究部会にできるだけ出席する。
成果・課題	和歌山県立紀伊風土記の丘での総会に山野英嗣、奥村一郎、堀川純也が出席した。

⑥ 全米日系人博物館との姉妹ミュージアム提携

令和6年度目標	全米日系人博物館と姉妹ミュージアム提携を締結する。
成果・課題	両館長により締結された。

7 安全と快適性

美術館長による所見	現在の建物も建設から 31 年を経過し、建物内外に傷みが目立つ。持続的な活動を確保するために、安全性にも配慮した修繕を行う必要がある。本年度は展示室の空調機の修繕が実施されたが、展示室以外の空調機修繕をはじめ長期的な改修修繕計画が必要である。 継続的課題で懸案の建物の長寿命化対策や機能回復については、今後、課題の更なる抽出と優先課題について速やかに対処することが急務である。経年劣化による機能不全や防犯防災機能の技術的進歩に合わせたスペックの更新など、時代状況に合わせた持続可能な最適解を検討し、美術館の存在意義に係るソフト面とハード面の両面からの議論の上に、短・中・長期ヴィジョンが計画立案され、着実に修繕・改修が推進されることが求められる。
評価部会による所見	施設・設備の改修が必要な時期に入り、日常的なメンテナンスがさらに重要になると共に、長期的な計画のもと、美術館として、建築の維持に取り組む必要がある。

(1) 施設・設備

① 施設・設備の維持管理（定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保）

令和 6 年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。新型コロナウイルス感染拡大防止に対する必要な方策を取る。
成果・課題	施設・設備の定期的な保守管理、日常のメンテナンスを行うとともに、経年劣化による修繕箇所を把握し、空調設備や消防設備等の施設修繕を実施することにより安全確保を行った。

② 施設・設備の改修・更新・整備・増設

令和 6 年度目標	空調の改修工事を行う。経年劣化による各設備老朽化に対応する。
成果・課題	展示室 3 室の空調機の修繕が実施された。豪雨時のエントランスの雨漏りに対して修繕を行った。ポンプと配管の修繕を実施した。パイプシャッターの修繕を実施した。開館 30 年以上が経過し、施設・設備の老朽化による故障等が発生しているが、緊急性を勘案しながら必要な修繕を実施することが課題である。

③ 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持・衛生管理

令和 6 年度目標	日常的なメンテナンス等により施設の美観の保持・衛生管理を行う。
成果・課題	日常的なメンテナンスを継続して行った。

④ 長期修繕計画

令和 6 年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
成果・課題	令和 8 年度以降の展示室以外の空調機の修繕計画に取り組んだ。収蔵庫拡張計画等、今後の課題は多い。

(2) 快適性の向上

① バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

令和 6 年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
成果・課題	自動ドアやエレベーターの保守点検、点字ブロックの修繕を実施した。

② 利用者に対する接遇

令和 6 年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
成果・課題	丁寧な対応を行うよう、意識の向上を図った。

③ 快適性向上のための上記以外の取り組み

令和 6 年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
成果・課題	故障中のトイレやウォータークーラーの修繕対応中である。

(3) 危機管理

① 危機管理・防災体制

令和 6 年度目標	新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて拡大予防とともに、危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
成果・課題	地震及び火災時の避難訓練を実施した。

② 個人情報の保護・データ管理

令和 6 年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
成果・課題	展覧会関係者、講演会・研修等の参加者の情報管理を適切に行った。

(4) 職員研修

令和 6 年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり 2 回以上の参加を目指す。
成果・課題	職員に対し、利用者への適切な対応をするよう指導した。研修への参加には、できる限り対応したが、各職員 2 回以上は達成できなかった。

(5) 情報公開・利用者のニーズなどの把握

① 使命、目標、計画などの方針の公開

令和6年度目標	使命、目標、計画などをホームページ等で公開する。
成果・課題	「和歌山県立近代美術館の使命」をホームページ、年報で公開した。

② 実績や評価結果の公開

令和6年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
成果・課題	令和5年度の実績評価についてホームページで公開した。

③ 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

令和6年度目標	入館者情報の把握を行う。
成果・課題	アンケート回答コーナーを設置し、調査を行った。

④ 利用者の満足度・ニーズなどの把握

令和6年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
成果・課題	アンケート回答コーナーを設置し、調査を行った。

⑤ 調査結果等を反映した運営

令和6年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
成果・課題	アンケートにより満足度の把握を行い、対応すべき事柄には迅速に対応した。

8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	当初設定した目標入場者数を達成することができたが、有料・無料入場者のさらなる増進に向けた工夫・努力が必要である。外部資金の確保については、地域創造や文化庁からの資金を得て努力しているが、今後、美術館自体の機能強化のためにも、館の存在意義の再確認と適正目標の設定、さらなるアピールと支持層の拡大に向けて多角的に有効策を講じる必要がある。
評価部会による所見	展覧会開催費の内訳が資料から読み取れないので、検討してほしい。物価、光熱費、人件費等が高騰しつつある現状では、この規模の美術館を動かすには展覧会費が少なく、限界であろう。

(1) 入場者数

令和 6 年度目標	入場者数は 45,000 人を目標とする。
成果・課題	年間入場者数は 45,096 人であった（展覧会の内覧会、県展は含まず）。

(2) 財源の確保

A. 入館料収入 達成率

令和 6 年度目標	当初予算 4,242 千円に対する達成率を 100%とする。
成果・課題	決算額は 4,126 千円で達成率は 97.3%であった。

B. その他の収入

令和 6 年度目標	駐車場収入 3,295 千円、行政財産使用料 1,287 千円、その他 15,885 千円を目標とする。
成果・課題	駐車場収入 3,133 千円、行政財産使用料 1,150 千円、その他 32,952 千円であった。

C. 外部助成金等

令和 6 年度目標	助成金を得られるよう応募する。
成果・課題	「仙境」展に対して一般財団地域創造の助成金 8,917,000 円を得た。 「移民史継承のモデル構築を目指した広域の MLA 連携事業」に対して文化庁の補助金 11,677,569 円を得た。